

IMPELLA の現状について～J-PVAD レジストリとの比較～

¹東京医科大学八王子医療センター、²東京医科大学八王子医療センター

長坂 咲理¹、村澤 孝秀¹、田中 駿丞¹、小鮎 友美¹、遠藤 大介¹、若林 玲央¹、丹木 義和¹、
久保 隆史²、田中 信大²

【背景・目的】IMPELLA は、経皮的に左室に挿入し循環補助を行う心内留置用のポンプカテーテルである。心原性ショックの生存率を大きく上昇させたデバイスであることから、有効性も多数報告されている。今回、当院における IMPELLA の使用状況について検討したので報告する。【方法】2020 年 9 月から 2025 年 1 月まで当院において IMPELLA を導入した患者を対象とし、生存転帰及び合併症について調査した。【結果】IMPELLA 使用患者は 56 名(男性：46 名、82.1%)であり、平均使用日数は 5.0 ± 3.2 日間、抜去時の生存者は 43 名(76.8%)、30 日後の生存者は 38 名(67.9%)、退院時の生存者は 36 名(64.3%)であった。また、V-A ECMO 併用患者は 29 名(51.8%)であり、V-A ECMO 併用患者の抜去時の生存者は 18 名(62.1%)、30 日後の生存者は 16 名(55.2%)、退院時の生存者は 15 名(51.7%)であった。合併症では、溶血が 25 名(44.6%)、出血が 21 名(37.5%)、下肢虚血が 14 名(25.0%)であった。【考察】J-PVAD レジストリと比較してみると、生存転帰については抜去時には変わらないものの、30 日後や退院時には当施設の方が高い傾向が見られた。合併症については、出血、溶血、下肢虚血の割合はレジストリより高かったが、背景に V-A ECMO 併用症例が当施設では多かったことが寄与したと考えられた。今後は合併症対策として、メイロンパージやシースの運用変更などでどのように変わるか注意深く観察を行う必要があると考える。【結語】当院における IMPELLA の使用状況について検討を行った。合併症の割合など今後改善すべき点が明確となった。